

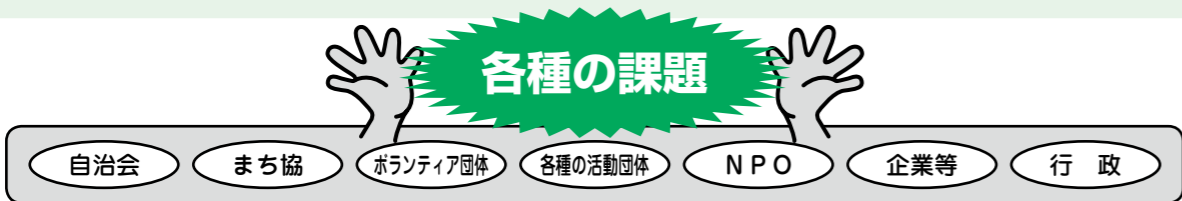
参画と協働のまちづくり つながり(連携)を活かしたまちづくりを考えてみませんか!

なぜつながりを考えるの?

●全国的な動き 「新しい公共」

少子化・高齢化や人口減少、福祉・子育て・まちづくりなど様々な課題やそれらに対するニーズがある一方で、行政だけでなく、市民が相互に、あるいは市民と行政が協力して住みよいまちづくりを進めていこうという意識も高まっています。

このように「公共」＝「行政」ではなく、市民と行政の両者がまちづくりの主体として役割を分担し、ともに公共を担っていく「新しい公共」という考え方が生まれてきました。



●篠山市では

★行政や市場だけでは解決できない社会課題の増加

- 少子化・高齢化やそれに起因する様々な課題が発生
- 福祉や子育て、環境、多文化共生等々専門的な課題の深刻化 など



★自治会、まちづくり協議会、市民活動団体による活動が展開中

- 自治会を中心に、過去から近隣の調整や環境美化、助け合いイベントなどの活動が展開
- まちづくり協議会やボランティア団体、NPOや各種の活動団体などの主体も活動を展開
- 地域活動に参加したい市民意識も高い(約4割)

地縁やテーマに基づく多様な市民活動の実態があり、地域活動に参加したい人の割合も多い篠山市では、こうした市民パワーをまちづくりに活かす方向が望まれます。

【篠山市の現状】

●人口減少・高齢化社会に向かう篠山市

篠山市では平成14年(2002年)をピークに人口が減少しており、今後も減少傾向が続くものと考えられます。このため、増加する高齢者や子育て層の支援が、これまで以上の課題となっています。

●市民の意識(住民意識から)

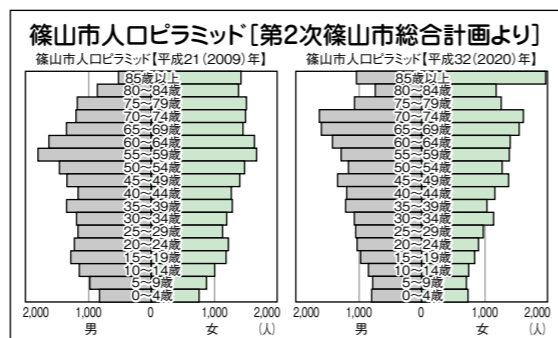
平成22年に実施された県民意識調査では、当市を含む丹波地域は市民活動に対する関心が高く、活動への参加の割合も多いという傾向が示されています。

また、同年実施した篠山市総合計画市民アンケートでは、身近な地域課題を解決していく主体は、行政・自治会・隣近所の順となっており、市民と行政の関係は「行政と住民が役割を分担」が最も多くなっています。地域活動への参加は、約4割が「参加したい」との回答になっています。

◆丹波地域は地域活動への参加割合が高い

右図は県民意識調査での「安全な生活のための活動」についてのグラフです。

ほかにも「環境保全活動」や「スポーツ・文化・芸術活動」、「まちづくり活動」などにおいても同様に、丹波地域は地域活動への参加割合が高い傾向にあります。



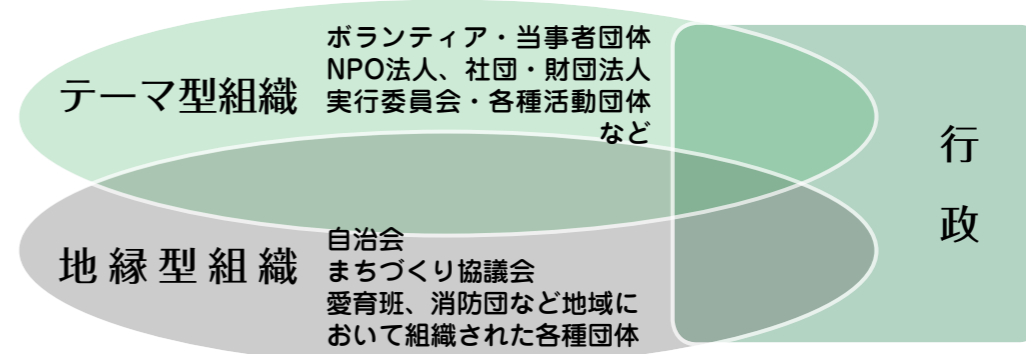
地域	活動の企画段階から参加	実施スタッフとして参加	一般参加者として顔を出す	参加したことがない	無回答
神戸	4.3	14.7	77.9	3.7	
阪神南	3.0	19.0	71.3	6.3	
阪神北	3.6	16.7	74.1	5.3	
東播磨	5.9	18.4	67.3	7.7	
北播磨	8.2	24.0	58.2	7.6	
中播磨	7.4	29.9	55.0	6.0	
西播磨	11.0	33.1	46.4	7.2	
但馬	11.7	34.0	41.3	9.8	
丹波	10.7	36.1	40.8	9.7	
淡路	10.1	26.9	51.0	11.3	

参画と協働のためのQ&A

*誰と組めばいいの?

行政だけ、あるいは市民団体や市民だけで取り組むよりも、共通の目標に向かって様々な組織が関わり、特性を活かすことで効率的・効果的に地域課題が解決できる可能性を高めることが期待できます。

地域内でのつながりの強さを持つ自治会やまちづくり協議会といった地縁型組織の活動をベースにしつつ、ボランティア団体やNPOをはじめ多様な活動を展開する各種の活動団体、そして行政が連携しあって地域づくりを進めることが望めます。(下図の重なりあった部分での連携が期待されます)



性格の異なるグループ(地縁・テーマ)の連携で、それぞれの得意技を活かしたまちづくりにチャレンジしてみましょう!
人口減少・高齢化が進んではいますが、篠山に今ある力を効果的に活かす方法を一緒に考えましょう!
※連携により展開されている様々な活動を裏面に記しています。

*どうやって進めればいいの?

協働を進めていく際には、関係者間の信頼を高め、事業の成果を確実なものにするためのルールがあります。ルールには、①目的共有②対等な関係性(パートナーシップ)③相互理解・自主性尊重(それぞれの立場尊重)④自立化志向(自立した組織へ)⑤相互変革(自分で変わっていく)⑥情報公開(共有)・透明性⑦補完性・相乗効果⑧評価・見直し、などがあります。このルールを理解して取り組むことが必要です。

しかし、大切なのは、「できることから始める」というルールです。あまり大きなことや、ハードルの高いものから始めるのではなく、まず、協力・連携してできることからやってみましょう。

*運営上、気をつけることは?

協働して取り組もうとする事業とは、個人的なものではなく公益的な事業です。そして、協働で事業していくためには、①民主的な意思決定(関係者皆が意見を述べられる、決定に参加できる)②透明性(お金や動きが誰からも見える)③誰もが活動に参加できること、が大切です。

多様な主体や行政が、それぞれの特性や資源などを活かし、対等な立場で協力・連携して、相互に補いあいながら、持続性のあるまちづくりを進めていくことが求められます。

始めましょう!!

いつまでも住み続けたい篠山市であるため、みんなでまちづくりに取り組みませんか? 個人よりも組織、ひとつの組織よりも多様な組織の連携…つながることで新しいまちづくりが始まる可能性が高まります。

篠山市では、この度、皆さんと一緒にまちづくりを進めていく『参画・協働の指針』を定めました。「参画」や「協働」とは、耳慣れない言葉ですが、当市での「近所付き合いに代表される相互扶助の文化」や「市民活動への意識の高さ」は、既に参画や協働の取り組みなのです。

簡単に言えば、すみよいまちをつかっていくことに関わるのが参画で、一緒に協力して取り組むことが協働です。つながりを意識して、まちづくりをはじめましょう!!

篠山市自治基本条例では、参画・協働を以下のように定義しています。

【参画】…市の施策や事業等の計画、実施及び評価等、まちづくりの過程に、市民が主体的にかかわること。

【協働】…市民と市又は市民と市民とが、それぞれの役割と責任を担いながら、対等の立場で、相互に補完し協力すること

市内では、さまざまなつながりの中での活動が展開されています。

※活動の一部を紹介します。市内ではこれらの他にもさまざまな活動が展開されています。

堀のボランティア清掃作業

市の呼びかけに、市民、建設関連の組織、保健衛生推進協議会などがボランティアとして協力し、堀の底に沈んでいた空き缶、タイヤ、鉄くずなどを回収。



高齢者移送サービス

人口減少が進む地域を少しでも元気にしていくため高齢者の買い物や通院を支援する移送サービス事業を展開。ひとつの自治会だけでは実現困難なことをまちづくり協議会の活動として実現。



大学とまちづくり協議会の連携

大学の授業の農業実習のフィールドをまちづくり協議会が受入窓口となって提供。

実習期間中だけでなく、実習が終了した後も受入農家や地域の人達との交流が続いており、学生のパワーや斬新なアイデアが地域づくりに活かされようとしている。



事業所等との協働

社会的貢献を行おうとする企業が、兵庫県、篠山市、地元自治会と森林保全協定書を締結。地域と企業が力を合わせて森林保全に取り組んでいる。



公共空間緑化活動

公共施設等の敷地を施設管理者と市民団体の協働作業によって管理。

敷地と花苗等は施設管理者が提供し、花壇のデザインは市民団体が決定。花の管理は施設管理者と市民団体が協力して実施。



防災市民塾

防災の専門性を持つ市民が、防災、減災意識の啓発と知識の向上を目的に組織を立ち上げ、まちづくり協議会や自治会をはじめさまざまな団体と連携して研修会等を開催。



参画・協働のまちづくりについてを示した『篠山市 参画・協働の指針』は、各自治会やまちづくり協議会にお送りします。また、社会福祉協議会、市役所(市民協働課)や各支所、図書館、篠山市民プラザ(市民センター内)でもご覧いただけます。

お問い合わせ先 〒669-2397 篠山市北新町41 篠山市民生活部市民協働課
TEL 079-552-1111(代) FAX 079-554-2332
E-mail siminkyodo_div@city.sasayama.hyogo.jp

安心・安全のまちづくり

孤独死を起ささないために地域としてどうすればいいか?地域の防犯活動をどうするか?といった課題を、一自治会でなくまちづくり協議会単位で検討し、地域の実情に応じた活動を展開。



まちなみでアートの祭典

国の重要伝統的建造物群保存地区の町屋に美術作品を展示する祭典を開催。



主催する実行委員会は、篠山ゆかりの芸術家や学生など多様な組織と連携し、事業を盛り上げている。

NPOによる交流サロン

子どもから高齢者までがいきいきできる居場所をつくることを目的とするNPOが、市内のまちづくり協議会と連携していきいきサロンを開設。

NPOの専門性を活かしたワークショップにより、参加者の満足度も高まっている。



都市農村交流

都市部の自治組織との農産物販売、農業体験を通じた交流や、集客力を持つ組織との連携により、山間部に都市住民を招く事業など、さまざまな形での都市農村交流事業が展開。



里山保全活動

里山に関心のある市民や商店が実行委員会を立ち上げ「木の駅プロジェクト」を開始。里山で伐り出した間伐材を木の駅に持ち込むと地域通貨と交換できる事業を展開。



篠山市民プラザ^(※)

活動団体だけではなく、これから活動を始めようとする個人にも市内の活動情報を提供するなど、活動をする人たちを側面から支援。

スローガンは ～つなぐ・むすぶ・きずな～



◇◇【活動者からのひとこと】◇◇

- 人と人のつながりは「あいさつ」から。言葉を交わすのがつながりの原点です!
- まちづくりでは笑顔が続いていくことが大切です!
- 有志で実施しているとき、最高の喜びは、お金ではなく「ありがとう」「頼りにしてるよ!」の言葉もらったことでした。
- 公益的な活動を行っている事業所との連携や、企業の社会貢献事業に応募して活動費の支援を受けるなど、活動を実施する方法も調べてみればいろいろあります。

- 高齢者や中高年になってから転入してきた人は、文化活動を通じて交流の輪に入るといった方法もあります。芸術文化活動がコミュニティづくりに果たす役割も大きいものがあります。
- 幅広く意見を聴いて回ると、いいアイデアがわき出てくることがあります。そしてその行為は、若者の参画につながることもあります。
- 「助けてほしい」と相手の力を求めて、相手を信頼して頼っていくということが、ゆるやかでやさしいつながりをつくっていくことにつながることもあります。

(※)篠山市民プラザ 篠山市黒岡191篠山市民センター内 TEL/FAX 079-552-0001 ブログ「せや!プラザいこっ!!」 <http://www.voluntary.jp/weblog/myblog/697>